

保護者会の資料や、
学校だよりにご活用ください!

保護者に伝えたいデータ集

これまで「VIEW21」に掲載した膨大な調査・研究データの中から、人気のデータをピックアップしました。
保護者会や学校だよりなど、保護者の方々への情報発信に是非ご活用ください。



<http://benesse.jp/berd/> をご覧ください

ベネッセ 研究

検索

ここにあるデータは「Benesse教育研究開発センター」のウェブサイト「VIEW21」（中学版）9月号のページからもダウンロードできます。

PICK UP DATA

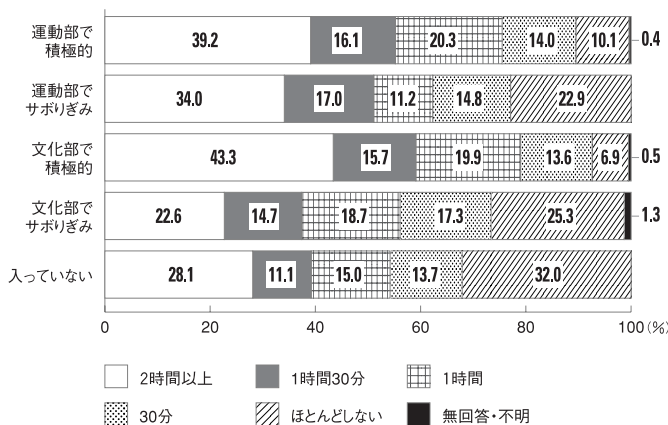
部活に打ち込む子どもは 勉強にも一生懸命!

中学生にとって永遠のテーマともいえる、部活動と勉強の両立。自己管理の難しさや、高校受験への不安から、途中で両立をあきらめてしまう子どもも少なくありません。

しかし、部活にうちこむことは、必ずしも勉強の負担になるわけではありません。部活の参加状況と平日の学習時間の関係を調べたところ、部活に一生懸命に取り組む生徒ほど、しっかり学習していることがわかりました。

部活を通して身につける、ものごとに打ち込む姿勢や、きちんとした生活習慣は、勉強にも必ず役立ちます。お子様がくじけそうになったときは、しっかり応援してあげましょう。

◎部活動への参加状況と平日の学習時間



(Benesse教育研究開発センター「第4回 学習基本調査」調査時期:2006年6~7月 <http://benesse.jp/berd/data/>)
※VIEW21(中学版)2007年9月号 p.20「データから見る教育」掲載

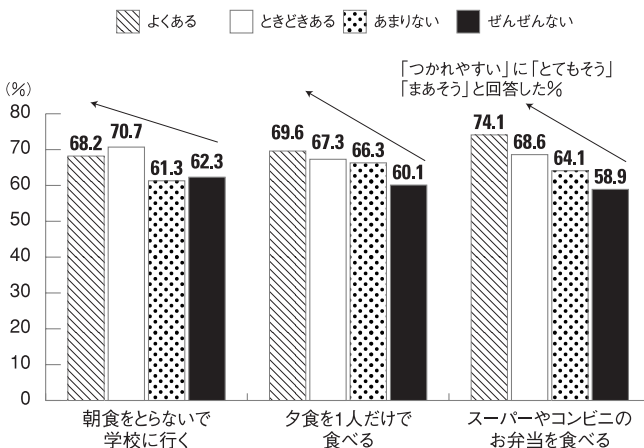
PICK UP DATA

夏休み明けに見直したい 食生活と体調の関係

食生活は、子どもの体調に直接影響を与えています。朝食を抜くことや孤食、コンビニ食は「つかれやすい」「やる気が出ない」といった不調につながりやすいようです。例えば、「スーパーやコンビニのお弁当を食べる」ことがよくある子どもの74.1%が「つかれやすい」と回答しています。

特に夏休み明けは、生活リズムの乱れや疲れから、子どもが体調を崩しやすい時期です。両親共に忙しい家庭も多いと思いますが、便利なものを上手に利用しながらも、食生活には十分注意しておく必要があるでしょう。

◎食事と体調の関係(中学1~3年生)



(Benesse教育研究開発センター「第1回子ども生活実態基本調査」調査時期2004年11月~12月 <http://benesse.jp/berd/data/>)
※VIEW21(中学版)2006年4月号 p.23「データから見る教育」掲載

PICK UP DATA

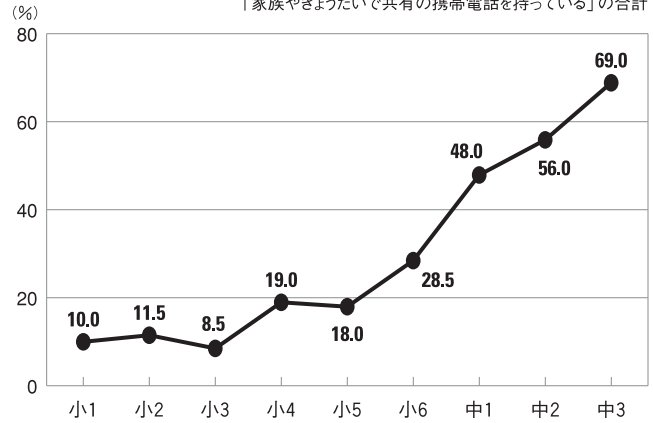
中学校の卒業までに 7割の子どもが携帯電話を持つ

図は、小学校1年生～中学校3年生の携帯電話の所持率です。小3までは1割前後ですが、小6で3割近くになり、中学に入ると急上昇。中3では約7割に達します。

携帯電話には、「親子で連絡をとるのに便利」「危険から身を守るのに役立つ」といったメリットがある一方、「有害情報に接する」「犯罪に巻き込まれる」などのリスクも心配です。子どもが携帯電話を持つようになったら、使用時のマナー、使いすぎや依存、有害情報に接するリスクなど、使い方のルールを、ご家庭で話し合うことが大切です。

◎子どもの携帯電話所持率

*「自分専用の携帯電話を持っている」と「家族やきょうだいで共有の携帯電話を持っている」の合計



(Benesse教育研究開発センター「ICTメディアに係わる子どもの利用実態及び利用環境等に関する国内外調査研究」調査時期:2006年3月 <http://benesse.jp/berd/data/>)
※VIEW21(中学版)2007年9月号 p.33「ベネッセの研究開発」掲載

PICK UP DATA

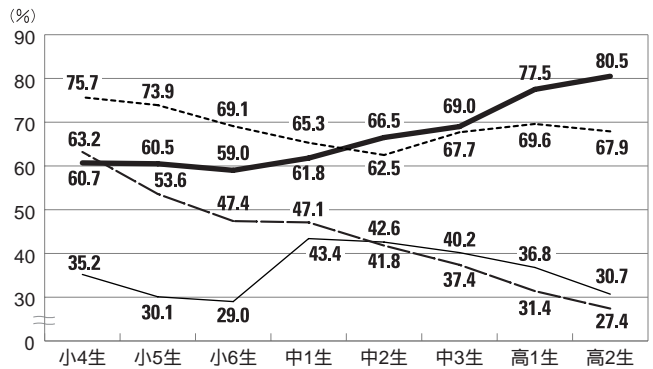
「褒める」「叱る」だけでは 勉強しない中学生

小学4年生から高校2年生の子どもに「勉強する理由」を尋ねました。注目したいのは「成績が良いと親が褒めてくれるから」の項目です。小学4年生では63.2%もあったスコアが、高2では27.4%にまで低下します。子どもたちは成長するにつれ、「褒める」「叱る」だけでは勉強するモチベーションが沸かなくなるようです。

一方、中学生になって伸びるのが「自分が就きたい仕事に就くのに必要だから」の項目です。中学生になったら、進学先や将来と勉強を結びつけて話し合ったりするとよいでしょう。

◎勉強する理由(学校段階別)

--- 成績が良いと親が褒めてくれるから --- 成績が悪いと親に叱られるから
- - - 問題が解けると嬉しいから — 自分が就きたい職業に就くのに必要だから



(Benesse教育研究開発センター「第1回子ども生活実態基本調査」調査時期:2004年11~12月 <http://benesse.jp/berd/data/>)
※VIEW21(中学版)2007年4月号 p.25「データから見る教育」掲載

PICK UP DATA

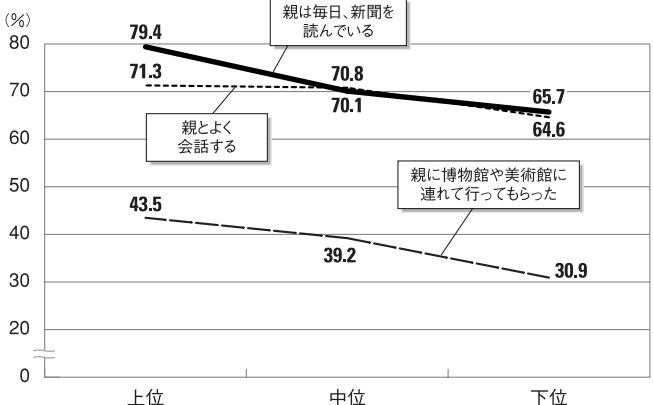
保護者の接し方が 子どもの成績にも影響!?

図は、保護者の行動と中学2年生の成績の関連を見たものです。成績上位の子どもの親ほど「よく会話をする」「毎日新聞を読む」「博物館や美術館に連れて行く」といった行動をとっていることがわかります。

宿題を見てあげるなど、子どもへの学習支援は大切です。ただ、それだけでなく、子どもと一緒にいる何気ない時間の過ごし方も、子どもの成績と深く関係しているようです。まずは、夏休みの体験について親子で振り返るなど、会話を充実させる工夫から始めてみてはいかがでしょうか。

◎親の行動と成績の相関

*各質問に「はい」と答えた割合



(Benesse教育研究開発センター「第4回学習基本調査」調査時期2004年11月~12月 <http://benesse.jp/berd/data/>)
※VIEW21(中学版)2007年1月号 p.26「データから見る教育」掲載